



ランドセルはいつごろだれが作ったの

オランダで作られるようになった

小学生が学習の道具などを入れて、背中にしょって通学するものですが、これは、日本が鎖国していた江戸時代にも交流があったオランダで、最初に作られたものなので、だれが、いつ作ったかはわからないのです。ランドセルのことが日本の文献で最初に出てくるのは、今から140年ほど前の、江戸時代の終わりごろで、高野長英という人が訳した本の中に、「ランストルという衣服や、いろいろなものをたくわえるもの」として紹介されています。また、明治時代のなかごろに「行のう、ぞくにランドセルとしようするもの」と書かれています。

学習院への通学カバンに使ったのが最初

このランドセルは、最初は「背のう」といって、陸軍の兵隊さんが背中にしょっていましたが、やがて、学習院への通学のときのカバンとして学生が使うようになり、その後、全国の小学生の通学カバンとして、もてはやされるようになりました。ただ、もともと日本で考えられたものではありませんので、オランダでいつごろから使われるようになったのか、わかっていないのです。（監修・保岡 孝之）

